

令和 元 年度 福岡市立 [若宮小] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像	課題	今後の改善方針
<p>「明日が楽しみ、笑顔かがやく若宮小学校」 ○明るく活気に満ちた学校 ・学ぶ喜びがある学校 ・環境が整備された美しい学校 ・信頼される学校 ○若宮プライドを身につけた子ども ・かしこい子(学ぶ意欲) ・やさしい子(豊かな心) ・つよい子(ねばり強いたくましさ) ○主体的に実践する教師 ・明確な目標 ・高い役割意識と責任ある職務遂行 ・豊かな発想を生かした働きかけ</p>	<p>確かな学力を育成する。</p> <p>不登校傾向児童の減少と規範意識の向上に取り組む。</p> <p>望ましい人間関係を構築する</p>	<p>・「若宮ノート」の活用を見直すとともに、DVDを作成し、学習規律の定着や学び方指導を全職員で徹底する。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、全職員が指導案を作成した授業研究に取り組み、わかる授業づくりをめざして授業改善に取り組む。</p> <p>・不登校傾向児童への個別対応を引き続き行うとともに、個を大切にす学級経営ができるようにする。 ・「ヒヤリハットノート」の活用を続け、学校全体の危機管理意識の向上に努めるとともに、学校全体で子どもを育てる意識を高める。</p> <p>・人間関係づくり学習の内容を見直し、1～4年は10時間、5・6年生は若宮タイムを使って計画的、系統的に実施し、安心して過ごせる居心地の良い環境づくりをめざす。 ・50周年という節目を大切に、つながりを重視したカリキュラムを作成し、実行する。</p>

重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明
<p>確かな学力の育成</p>	<p>「若宮ノート」に基づいて学習規律の振り返りを行い、指導の重点化を図る。(取組指標) 学習規律項目における児童の自己評価を85%にする。(成果指標) 授業もがわかる授業を展開するとともに、聴き合い活動を取り入れた授業づくりに取り組む。(取組指標) 国語と算数のテスト結果(全国学力テスト・学習定着度調査・全校テスト)が標準と比べて「同程度」となる。(成果指標)</p>	<p>・全学級で目標を達成できた。「若宮ノート」に基づいて指導できたが、今後は個別の指導を要する。 ・前期は学習規律定着に重点をおいた授業研究、後期はテーマである主体的・対話的で深い学びに重点をおいた授業研究を全員実施し、わかる授業を目指した取組を進め、授業改善につなげることができた。 ・全国学力調査・学習定着度調査の結果では、国語は「同程度である」「やや上回っている」であったが、算数は5・6年生が「努力を要する」であったものの、全体的に大きく向上している。また、年2回の全学年の漢字力計算力テストでは、全校平均正答率88%と達成目標を3%上回り、成果が表れていた。</p>
<p>「学びのユニバーサルデザイン」の共通実践と個に応じた指導の充実</p>	<p>「学びのユニバーサルデザイン」に基づいて、学校生活の振り返りを行い、指導の重点化を図る。(取組指標) 毎月の振り返りアンケートにおける児童の自己評価を85%にする。(成果指標) 危機管理・未然防止のため「ヒヤリハットノートで安全ノート」の取組を毎週行う。(取組指標) “ヒヤリ”を共有し児童1人1人の状況把握に努め、不登校傾向児童の欠席率を平成30年度より減らす。(成果指標)</p>	<p>・「若宮ノート」に基づいた生活規律の定着においては、全職員で共通理解・共通実践をすることができた。指導の徹底が必要な場合は、担当が毎回指導資料を作成し、共通指導ができた。 ・振り返りアンケート結果は全学年9割以上が85%以上。 ・毎週水曜日に「ヒヤリハットノート」を記入し提出することで、職員の危機管理意識が高まった。また、週1回児童終礼を設定し、個別の児童の共通理解を図ることで、全職員で子どもたちを育てる意識が強まった。 ・不登校傾向児童数は減少していないが、全体的な遅刻児童は減少した。また、病院利用数も前年度の8割となった。</p>
<p>児童個々の自尊感情の育成と、望ましい人間関係づくりの構築</p>	<p>Q-Uアンケートや毎月のアンケート、振り返りカード、教育相談週間を実施する。(取組指標) アンケート等の結果を共有し、即対応、チームで取り組む。明日が楽しみな学校肯定評価85%以上。(成果指標) 人間関係づくりのスキルを系統的計画的に取り入れ、実生活で生かす取組を進める。(取組指標) 振り返りカードでの自己評価で、肯定的評価85%(言葉について)を達成する。(成果指標)</p>	<p>・アンケートや振り返りを計画的に行い、児童の様子を把握することができた。各学級の教育相談週間は、アンケートをもとに個別に話げできた、効果があった。職員の肯定的評価は約90%である。 ・SCやSSWと連携し、個別の対応を積極的に進めることができた。 ・人間関係づくり学習を取り入れながら、自己や他者を大切にする社会的スキルを高める取組を進めた。しかし、計画通りに実施できなかった学年もあった。次年度は、系統性や実施時期などの計画を見直す必要がある。 ・振り返りカードの児童の肯定的評価は約90%。</p>

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

学校評価について年度当初、本年度は学校組織として、「共通理解を図る」「協働的に取り組む」「成果を共有し発信する」ことの説明があった。学校は大変多忙な中、様々な課題に取り組んでおられ、地域・学校関係者としても全力で支援していきたいと考えている。

「若宮ノート」も定着し、学習規律・生活規律の定着につながっているようである。全国学力テスト・学習定着度調査・全校テストは昨年度と同程度であったものの、学校独自に漢字力・計算力テストを実施しており、地道に成果を上げて基礎力向上を図っていることは素晴らしい。今後も学びへの子供たちの意欲の変容をとらえ、指導に役立て、来年度へつないでほしい。さらに今年度は、音楽の研究大会でプログラミング学習の授業について提案し、市内各学校にプログラミング学習の可能性を発信した。多様な中、若宮小学校の先生方は指導力を高めるためにプラスαの努力を惜しまず日々研鑽を積み重ね、努力されている姿に頭が下がる思いである。

「ヒヤリ」を共有して指導に役立てたことで、本年度は遅刻者数、病院利用者数が減少する成果が見られたことは、組織として取り組んだ学校の成果だと捉えている。ぜひ、次年度も引き続き取り組んでいただきたい。子どもたちの自尊感情を育成し人間関係づくりを構築することはたやすいことではないが、SCやSSWと連携し、振り返りカードを用いて児童一人ひとりとつながりをもった指導を積み重ねていることが、児童の肯定的評価の数値の向上につながっていると考える。これからも組織・チームとして内外とつながり子どもたちを育てていただきたいと思う。